

第二一四回ペン川柳会

令和四年三月二十二日

お題 「三」

■ 松谷 (零門)
れいもん

三ツ星もかなわないのは母の味
傘寿超え三度の食事モリモリと

■ 八木 (明迷)
めいめい

目薬を3階からさす西諸国
3歳が好きな言葉の独裁者

■ 大野 (だし)

三つ指をついたはずだが知らん顔
コロナ禍に高値追いかけて三隣亡

■ 西川 (酔雅)
すいが

八十路入り出番激減三文判
三振の夢で目が覚め寝不足に

■ 三春 (火酒)
ウオツカ

起業して三日天下の亭主面
三つ巴大統領の攻防戦

■ 稲宮 (井波)
いなみ

天女そばあと三寸で夢途切れ
酒肴コロナ退散三次会

■ 塚田 (拿々)
だだ

落ちこぼれ三井三菱縁は無し
三次会ふらふら乗って二日酔い

■ 曾山 (酪帝)
めいてい

今八十路三つ子の魂あやかろぞ
プーチンよ三次大戦やめてくれ

■ 山縣 (安兵衛)
やすべえ

一二の三梅桜の次居酒屋だ
古いよね三井三菱三なすび

■ 安藤 (晃二)
てるつぐ

栄一の三極の里カトマンドウー
春の小川柳の芽揺る三月来

世話人 塚田 實 (拿々)
だだ